

シラオス在住の女性

私は夜会の時に演奏するオーケストラに入っていた。グラン・ホテルではそんなにやっていなくて多分一回しか演奏していない。アコーディオン奏者だった。[場所は]今はフィガンになっているけど、前はフォンテーヌがあった。それからパイエットも。今プティ・ランドヌールがあるところで、宝くじ売り場があるところ。隣にレストランがある。毎週末にダンスパーティーがあって、そこでほとんど毎週末演奏していた。

私はシラオスじゃなくて、サン・ドゥニの出身なんだ。その後、ここに来たんだけどずいぶん前のことで、それから長く住んでいる。結婚はしなかったけれど甥を預かった。ここに来た後で彼を預かった。彼は少なくとも6ヶ月ぐらいだった。彼もサン・ドゥニ生まれだよ。

私は今91歳で、シラオスに来たときは26歳だったと思う。私の家族の名字は、ライダイ Lai Dai だよ。広東語ならしゃべれるけど客家語はできない[実際はその逆?]母はピアノを弾いていて、彼女はピアニストだった。それで私は、9歳の時にサン・ドゥニで音楽を始めた。私のお母さんも中国ではなくてレユニオンで生まれた。名字はチャンミン Cham ming だった。楽器は色んなもの、ピアノ、アコーディオン、ギター、リコーダーとかを演奏していたけどヴァイオリンは諦めた。前に一度、RFO(レゾー・フランス・ウートゥルメール：フランス海外県放送)の人が10年前ぐらいにここに来たよ。多分放送されたと思う。

私の甥は私のことを母と呼んでいるし、私も彼を息子だと思っている。彼はサン・ドゥニ生まれで私の姉の子だった。ここに住んでいるドミニクというパン屋は、甥の息子だから、私の孫みたいなものだね。姉が亡くなった時に彼のお父さん[甥]を預かったけどそれは戦後すぐのことだった。私はここで店をやっていたのだけれど、その店は宝くじ売り場の向かいで、レ・プラタヌというレストランがあるところの向かい。今はもう、あそこに店はない。当時、看板はなかったけど、店の名前はアモイ Amoy といって、いわゆる愛称だった。店主だった私の夫(中国人)の名前はチョ・モイ Cho Moy だったから。[その名前は]フランスに帰化したから今はなくなってしまった。だから私は商売をやりながら、週末は音楽を演奏していたんだ、タンゴやミュゼット・ワルツやジャヴァなんかね。あの時代は良かったよ。